

第1回地域医療に係る対策を検討する専門委員会 結果概要

1 日 時 令和元年8月7日(水)午後7時から午後9時

2 場 所 石岡市役所2階 201会議室

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

4 内 容

○ 石岡地域における医療の現状及び課題について、事務局からの説明の後、意見交換を行い、以下の課題が共有された。

<医療体制関係>

- ・八郷地区をはじめ周辺部において、医療機関へのアクセスが課題となっている。
- ・分娩ができる施設がない。
- ・小児科は、入院受療率や平日夜間の緊急診療の受入れが課題。
- ・医師不足と医療圏内の医療資源の偏在が課題となっている。
- ・医師の高齢化が進んでいる。
- ・医師不足と医師の高齢化、医療スタッフ不足などにより、緊急診療の体制維持が困難となっている。
- ・地域医療構想において、回復期病床が不足することが見込まれている。
- ・施設や医療機器の老朽化が進んでいる病院がある。

<受療動向関係>

- ・現在は、管内の病院で受療できている外来診療についても、地域での受け皿が不足することが想定される。
- ・入院については、5割超が管外へ流出しており、管内での受け入れを増加させる必要がある。

<救急関係>

- ・石岡地域で受け入れる二次救急の割合を増加させる必要がある。
- ・三次救急からの回復期の受け皿を確保する必要がある

○ 本日出された課題を事務局で整理し、具体的方策について、第2回(9月19日)で検討することとなった。

【主な委員意見】

(1) 救急体制の充実について

- ・5～10年先の高齢者の軽症患者の増加を見据えた救急体制の充実が課題。各病院の救急受入れに余裕はあるか。
- ・現在月60件から100件でありもっと受けられる。体制を整える際には行政からの支援がほしい。例えば、輪番制の補助は受入れ件数に応じた形にしてほしい。
- ・受入れがゼロの日も5～6件の日もあり、その日によっては、もっと受けられる。
- ・月20件だが医師不足のため、今の水準が限界。
- ・平日昼間であればまだ受けられるが、夜間は派遣医師なので受けたがらない。
- ・小児救急について、夜間はほぼ土浦協同病院に行っているため、管内で受けられる体制を作りたい。
- ・石岡地域で受け入れる二次救急の割合を増加させるためには、少なくとも軽症例は

管内の二次救急病院に搬送してもらい、対応していきたい。

(2) 医師・コメディカルの確保について

- ・ 常勤医師・コメディカルの不足が深刻。
- ・ 病床が足りない病院と医師不足で休床している病院があるのは課題であり、地域全体で考える必要がある。病床を増やすことも1つの選択肢。
- ・ 若い医師が来るよう研修環境を充実させる必要がある。
- ・ 昨年の市民医療懇談会で意見があったように、医師を呼べる施設として中核病院を作りたい。
- ・ 中核病院とはどのようなものか。作るなら全ての病院をやめて作るべき。
- ・ 医師が家族と住める環境づくりなども含めて検討していきたい。

(3) 産科について

- ・ 正常分娩だけでも石岡地域でできるようにしたい。産科がないと、人口は増えない。これについては、行政も一緒に対策を考えてほしい。
- ・ 産科を行うには産科医が3人は必要であり実際は難しいだろう。
- ・ 産科開設は理想的な話だが、土浦でも産婦人科が辞めている。石岡で産科をやるのは難しいのではないか。
- ・ 正常分娩のみであれば、病院ではなく、既存の有床診療所に若い医師を呼んでやるくらいがいいのではないか。
- ・ 若者の移住定住を考える上で障害になるのは医療体制の充実。小美玉医療センターが民間移譲されたが、産科はなく、小児科も標榜できない。石岡地域で安心して子供を産み育てられる環境を用意できるといいと思う。

(4) 病院間の連携について

- ・ 患者の紹介等、既に各病院との連携はよく取れていると感じている。
- ・ 脳と心臓の専門病院として受入れ努力をしているところで、肺炎などその他の疾患は他の病院で受け入れてもらえると専門性を生かせる。
- ・ 4つの病院をうまく棲み分けできるといい。脳神経外科病院と山王台病院は急性期、医師会病院と第一病院は内科中心として、連携を今まで以上に強化できると良い。
- ・ かすみがうら市内は、診療所のみであることから、時間外の対応は軽症であっても全て土浦協同病院の救急外来に行っているのが現状。現在の所、かすみがうら市民は今の体制を受け入れていると思われるが、将来も現在同様に協同病院が診てくれるとは考えられないので改善が必要。

(5) その他

- ・ 医療は産業の面があり、雇用を生む。産業育成の一環として捉え、行政が財政支援する姿勢も必要である。

以上